

一月二十九日つづき

早稲田の卒業設計の大半が保存と再生のテーマが選ばれていた事の驚きはチョッと時間をかけて考えてみる必要がある。学生達の直観がそうさせたのか、私達の課題の作り方、与え方がそうさせたのか、そのどちらかという単純なことではなくて、やはり学生の時代感覚とからみ合っただけ起きた現象なのだろうが、この小事件、これは明らかに事件なのであって偶然に起きた事ではないのだが、この事件をきっかけに事をより前向きにとらえてゆく可能性について沈黙思考する必要がある。

一月三〇日

朝十一時星の子愛児園上棟式。会食。打ち合わせ。熊谷組高橋工業とスケジュール、予算の件で少々厳しい話し合いになった。いつもの事だ。こういう事で気の弱い奴は設計から脱落してゆく。二月四日に屋上の不整形シリンドラーの部品が現場に搬入される。それからがこの建築の勝負だ。夕方明和会新年会。元議員現議員入り乱れてアイサツ合戦で現実社会の滑稽極まる断面を見る思いがする。

一月三一日

卒業計画判定会議。夜世田谷打合わせ。宮沢賢治殺人事件読み進む。読書のスピードが遅くなった。我ながらまどろっこしい。

二月一日

月並みだがアツという間に一月は過ぎた。と言うよりアツと声を立てる間もなかった。本を読む時間さえ無い。無いと言うより作れない。余程気力を尽くして余計なモノをそぎ落としていかないと駄目だな。一日一日の暮し方の設計をキチンとしないと。私は年を経る毎に頑なになりつつあるのを自覚しているが、今の世相は相当に頑なにしても、まだ流されるという実感があるのが怖い。嘉納先生から日本建築学会が設計の入札制度廃止に動いているという話を聞いた。コレは違つと直観する。学会は建築家への利益導入に動いてはならない。勿論入札制度の不透明振りには大問題があるが、学会がそれを指摘するのはおかしい。短絡して言えばそれも又歴然たる拜金主義なのだ。建設業界の金まみれ体質の現実はある。しかし建築家の世界だってそれ程聖域である筈はない。建築家達の世界こそ談合談判の日常ではないのか。しかも現学会は建築家仙田満が会長である。会長が会長の属する世界への利益導入を企てる事はいかかなものである。学会は建築家の不況対策など講じることはない。他にやるべき事は少なくとも筈である。十三時ホテルオークラ6F桃花林で龍谷大学学長上山大峻氏杉浦康平、佐藤健と会食。四月十五日より西域へ調査旅行する事に決定。十八時目白GKで日本フィンランドデザイン協会へ、フィンランドのスケジュールが決まる。今日は朝、聖徳寺霊園の模型写真撮影した。これで次のステップへ進めるだろう。